

この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no. 52

緑町二丁目

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



今回の作品は、市役所北側の桜を描いたものである。ところで、桜の季節になると、時々思い出すことがある。それは、あの世界的大スターのオードリー・ヘップバーンに直接お逢いし、お礼を言われたことである。

昭和五十八年の桜の季節に、ヘップバーンの家族が来日した時に、彼女の息子二人を新幹線総合指令所に案内させていただいたことがあった。当時私は、国鉄^{*}本社の外務部に在席し、海外からの来訪者の接遇を担当していた。彼等の案内が終わった時、思いもかけず、私をヘップバーンに紹介してくれることになり、彼女が待っている東京駅に向かった。

私達が駅のホームに行くと、大勢の報道人に囲まれながら、彼女が私の方に近づいて来た。そして、笑顔で握手してくれ、息子達の案内に対して丁寧に敬礼を言われた。当時彼女は五十三歳であったが、美しい瞳が今でも心に残っている。その際、彼女からサインしていただいた色紙は、大切な思い出として大事にしている。

(絵と文・大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おおすかかずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。

※国鉄：日本国有鉄道。現在のJRグループ各社の前身。